

## 「公認会計士試験のバランス調整について」(令和7年6月公表)【概要】①

## &lt;公認会計士試験を取り巻く状況&gt;

- ・ 公認会計士試験の受験者数は、平成18年の新試験導入後、いわゆる「待機合格者問題」に伴い1万人程度まで減少したのち、最近では2万人を超える水準まで増加。
- ・ 受験者数の増加に伴い、短答式試験の合格率が低下し、一方で、論文式試験の合格率は相対的に高い水準となっているなど、それぞれの試験の位置づけ・役割からしても課題がみられる状況。

- **短答式試験**は、合格率が低すぎることや1問あたりの配点が高い問題が合否に与える影響が大きいこと等から、必要な知識を体系的に理解していても合格できない者が多数生じ得る状況。
- **論文式試験**は、合格率が比較的高いことや科目によっては記述問題の分量が減少していること等から、必要な思考力や応用能力等を十分に訓練できていなくても合格し得る状況。

## &lt;公認会計士を取り巻く状況&gt;

- ・ 監査の品質管理の強化が求められると同時に、監査業務における英語との関わりやITの活用が進むほか、サステナビリティ情報の開示・保証の導入に向けた動き。  
⇒ 公認会計士試験の合格者に求められる知識や能力も拡大。

よりの確に受験者の能力を判定できるよう、公認会計士試験や公認会計士を取り巻く状況を踏まえ、試験運営の枠組みや出題内容等について見直し（試験の「**バランス調整**」）を行う必要。

## 「公認会計士試験のバランス調整について」【概要】②

## 【対応①】 短答式試験と論文式試験の合格率の調整（論文式試験の合格基準の見直し）【令和9年試験より実施】

- 短答式試験の合格率が低く、受験者が正誤問題が中心の短答式試験に注力せざるを得ない状況は、試験合格者の資質や能力の確保の観点から懸念。



より多くの受験者が論文式試験を受験し、論文式試験での適正な競争が行われるよう、論文式試験の受験者数（短答式試験の合格者数）を増加させる。（論文式試験の合格基準の水準を引上げ。）

※ これにより短答式試験の合格率は上昇、論文式試験の合格率は低下することが見込まれる。

## 【対応②】 短答式試験の1問あたりの配点及び試験時間等の調整【令和8年試験より実施】

- 短答式試験の計算問題のある科目（財務会計論・管理会計論）では、試験時間の制約から問題数が少なくなっており、受験者の能力等を的確に判定する観点から課題。  
（また、問題数が少ないことにより1問あたりの配点が高く、これらの問題が合否に与える影響が大きい。）

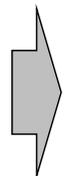


受験者の能力等をよりの確に判定できるよう、計算問題のある科目（財務会計論・管理会計論）において、問題数を増やし、1問あたりの配点の差を縮める。（それに伴い試験時間も調整。）

※ 各科目の配点（合計点）及び計算問題と理論問題の合計点の割合について変更を行うものではない。

## 【対応③】 試験問題の出題や能力判定に係る課題への対応

- 試験の出題内容等についても、公認会計士に求められる知識や能力に応じて適切なものとする必要。



（1）短答式試験と論文式試験の位置づけ・役割に応じた適切な出題【令和8年試験以降、随時対応】

- 論文式試験では、思考力や論述力等を確認するため、一定の記述量を求める出題が必要。

（2）論文式試験の選択科目における能力判定の適正化

- 受験者数が少ない選択科目においても適正な能力判定が行えるよう得点換算方法等について検討。

（3）公認会計士の業務や求められる能力の拡大に応じた出題

- 英語による出題、サステナビリティ情報の開示・保証及びITの活用に関する出題について検討。